

## 社 報



## 建物への思い

## 角締め金物

今、当社の高山倉庫に角締め金物の実験を行っています。だいたいにおいては使えそうなノドがたちつあるとこまで来ています。皆さんも倉庫でこの金物を見られたら、ああしたらどうやとか、こうした方が良いとか、意見をお聞かせいただければありがたいです。

良いモノを作って、能率を上げることは、挑戦を続けてこそ手に入るのです。あきらめてはいけません。



あいあい保育所に撮影

先日、あるお客様から苦情の電話をいただきました。

その内容は、「フォービル配下の解体工の職人さんが、先日打設したばかりの直押さえのコンクリート床面に型枠材を投げていた。」というものでした。

打設したばかりのコンクリート床表面は、まだ強度の発現が低く、硬度も十分ではないので傷がつき易いことは、皆さんもご存知の通りです。

その現場の所長さんも言うておられました、「工程も厳しく、単価も安い中を、毎日良く頑張ってもらっているのはありがたいことです。しかし、良い建物を作ろうという、建物への“愛”が無ければ、その頑張りも意味のないものへ変わってしまいます。」

まったくその通りです。私達を取り巻く環境は厳しく、仕事をしていてもやり甲斐を感じられない状況が続いています。

しかしながら、仕事を職業として選択した限りは、境遇がいかにあるろうとも最善を尽くすのが、職業人としての努めです。それは職人の誇りとして持ち続けねばなりません。

今は環境が悪くとも、職人としての誇りを持ち、腕を磨き続けられれば、時も過ぎ、環境が良くなれば、処遇の改善も期待できるというものです。

もし今の処遇が悪いからと言って、仕事の質を落としてしまえば、例えば環境が良くなっても、処遇が元に戻ることはありません。

当社の社名、「フォービル」は、和製英語ですが、由来は「for Build」、「建物の為に」、という意味です。私達の仕事は、「良い建物」を作ることですから、建物の為になる仕事をしなければなりません。

先に述べた、解体工の職人さんも良い人で、たまたま仕事がきつくてそうした行動を取ったということであり、現場所長さんからも、本人さんには理解をいただいたと言っておられました。

会社としては、当社のすべての現場でそうした行いが無くなることを実現しなければなりません。

それは、ルールとか叱られるということではなく、社風として、そんなことは許されないという雰囲気を作ることだと思っております。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## 7/1~7/7 全国安全週間

上記の期間は、全国安全週間です。それに伴い、6月は安全準備月間となっています。この期間には、安全大会を始めとして、安全パトロール、安全表彰など、各会社・各現場で様々な行事が行われます。当社としても、そうした行事には積極的に参加して、みんなの安全意識を高揚したいと思います。

不景気で仕事が少ない時代です。これは当社に限らず、同業他社も同じです。ノドから手がでるほど仕事が欲しいこの時期に、例え、不可抗力であったとしても、ひとたび事故を起こせば、仕事自体も他社に奪われてしまいます。

今一度、自分の行動を振り返り、安全な仕事とは何かを考えてみましょう。

## 2010年 安全成績

■ 現場災害 H22.1.1-H22.6.13	
休業災害	----- 1
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 2
■ 交通災害 H22.1.1-H22.6.13	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 2
合計	----- 2